



大屋根の家



西立面図 S=1:150

「設計コンセプト」

計画敷地は郊外型の立地条件で、自然エネルギーを積局的に活用できる計画を検討した。特に、日射遮蔽・日射導入・通風の建築的対策を、大きな軒下を作って解決を試みた。軒下のトップライトから入る太陽光は、2階の窓を通して「優しい光」になって、1・2階の室に導入される。また、軒下を走る風は、2階の諸室の通風・換気を促進してくれる。日射調整と通風、快適な自然を享受できる、日本建築の特徴である軒下空間の提案である。

「地域性」

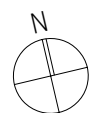
南側の小山が敷地におおきな影を落とす。エコハウスを敷地の北側にコンパクトに配置した。太陽光パネル・太陽熱温水器を載せる屋根は大きく、日本建築は「屋根の建築」と言われるとおり、「大屋根の家」を計画した。大きな軒下空間を持つ建築の快適性・耐候性は、日本の気候・風土の中で、その長い歴史が証明している。

緑地帯

建設工事・敷地整備で出る残土は全て集めて、これを廃棄処理するのではなく、エコハウスと前面道路との間に集積させて、緩やかな距離感を創る起伏のある緑地帯を計画する。

外部通路・車路の土舗装

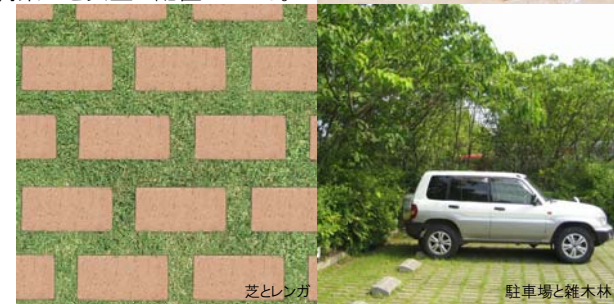
岡山県北部で生産されている製品で、主に土とセメントをミックスした保水効果、熱反射抑制効が有る土の舗装。夏季の庭木や建物をクールダウンする効果が期待できる。



配置図 S=1/300

駐車場

地元特産の耐火レンガと芝を敷き並べ、雑木林をイメージした植栽を設けた、環境を考慮した駐車スペースと、一般的なアスファルト舗装の駐車場を体感比較できる計画。どちらの駐車エリアの使用頻度が多いか季節ごとにデータを取る。



雨水槽

大屋根の家

西鶴山44号線

BM

隣地建物

隣地境界線

菜園・芝庭

夏季に雨水槽に溜まった水をスプリンクラーで散水する。植物の蒸散作用と気化熱で心地良い空気を、夏の南風が運んでくれる。家庭菜園には広すぎるが、隣の幼稚園児の「菜園体験」の場所に提供して、「芋ほりの後の休憩は芝の上で」と思い、芝と菜園の腐葉土を交互に配置している。